10月「Hühner」
アントニア・シュルト

1.子供の頃からペットを飼ってみたかったです。人間と違う生き物を仲間にしたり、管理したり、可愛がったりする部分もあったと思いますが、野生動物と違って、ペットは心のままに観察できると思いました。野生動物は人間に依存せず、自分勝手な生活をして、私がいてもいなくてもどうでもいいというところは尊重しますが、やはり近くからみたり、触ったり、個性を知ろうとするのはなかなか難しいと思います。

10月「Hühner」
アントニア・シュルト

2. 親は動物を家の中で飼うものではないというスタンスをもっていて、飼うことを許してくれませんでした。とはいっても、馬は2頭飼っていましたが、その居場所が子供の目線からいうと、かなり離れていて、自転車で30分、姉と一緒に飼っていたので、週三回ぐらい管理をしに行きました。ちなみに、毎日観察できるようなペットではなかったです。言うまでもなく、何より犬が欲しかったですが、それは親の断固とした態度でどうしようもないと分かりました。

10月「Hühner」
アントニア・シュルト

3.犬と比べて、鶏はレベルが別格ですが、鶏も面白いし、外で飼う身近な動物として折合がつけそうな部分もあって、とりあえずこれで満足しようと決めて、鶏を飼ってもらえるように、両親の納得を得るように取り組みを始めました。私の両親、特に父の場合は、ただの「あれ、これ欲しい」、「お願いします」では成功しないので、本格的な情報検索をしたうえで、自分の覚悟を示すようなプランを立ててみました。家のパソコンがインターネット接続ではなかった時代だったので、図書館に行ったり、鶏畜産についての本を読んだりして、鶏の種類や飼い方、小屋の建て方といったテーマに関する情報を集めて、勇気を出して発表しました。検討はしてくれましたが、許可は結局得ませんでした。ある程度、期待をもってしまったことは、あのエピソードの悔しいところでした。

10月「Hühner」
アントニア・シュルト

4. 2019年、日本に来て運命が突然逆転し、偶然にも鶏を手に入れました。その時から、群のメンバーの中は、入れ替わりが起こり、例えば、太宰ちゃんが野良猫にやられ、ロメルちゃんが老衰でなくなってしまったのですが、全体的に増えてきました。エルザちゃんとクララちゃんが今必死に卵を抱いているので、今月末は新世代を歓迎するかもしれません。

鶏は飼いやすいし、無料で草取りや虫駆除などをしてくれる上に、心を癒させるといった観点でぜひおすすめしたいペットだと思います。